

## コロナ禍の見守り 新様式を考えよう

300人が研修会

八戸

八戸市と同市社会福祉協議会は19日、地域で高齢者などの見守り活動を行っている消費者アシスト隊員やほのぼの交流協力員など約300人を対象に、「見守りネットワーク研修会」を同市公会堂で開いた。

八戸学院大学健康医療学部の吉田守実教授が「コロナ禍における見守り活動について」をテーマに講演＝写真。北東北3県の市町村社協の調査結果を紹介し、コロナ禍では介護保険利用者



より、元気な高齢者の方が心身機能の低下幅が大きい」と指摘。「1人暮らしにタブレットを預けて会話しようとする地域もあるが、有効とは思わない。『3密』やソーシャルディスタンスを図りながら、新しい生活様式の中でつながらる方法を考えなければならない」と語った。（三好陽介）